ICTを活用して、先生の診療をもっと便利に! もっと使いやすく!

メディカルiCTレター

ICTの活用で患者様と向き合う時間をもっと増やしたい

～診療科別ICT化のすすめより2つの医療機関様をご紹介～

ICT化メリットのひとつである業務の効率化。その先には、「質が高く、正しい医療を提供できる環境」がありました。

今回ご紹介する金子先生とさくらがわ地域医療センターはICTを活用し、より患者様に寄り添い、質の高い医療を提供したいという目的の元、業務改善、ICT化に取り組まれた事例です。

また、ICT化の内容は多岐に渡りますが、目的が明確であればあるほど、その効果は高く、医療機関様が目指す診療のスタイルが実現出来ているように感じます。誰か一人がシステムを利用しても効率化にはつながりません。医療機関に勤務するスタッフ、追っては患者様も活用できるシステムを導入する秘訣をご紹介する事例から学び取っていただければ幸いです。

File.11

クリニックフォア田町

医師
金子 和真 先生

科目：内科
皮膚科
アレルギー科
予防接種
自由診療
所在地：東京都港区

質の高い医療を提供するために、患者様に向き合える時間を求めた。

働く世代も多く訪れるクリニックフォア田町。院内のオペレーション効率化、そして患者様のストレスがかからないように診療待ち時間短縮が可能になった、その理由を金子和真医師に伺いました。

→インタビューの全文はwebで!

File.12

さくらがわ地域医療センター

富田 恵一 事務長

科目：内科・小児科
外科・整形外科
眼科・耳鼻咽喉科
皮膚科・泌尿器科
婦人科
所在地：茨城県桜川市

医療現場の声を未来を担うシステムの開発につなぐ。

これからの地域医療を支える要として。「さくらがわ地域医療センター」には、院内の業務効率化はもちろん医療現場全体を見据えた、メーカーとともに製品開発・改良に取り組む真摯な姿勢がありました。

→インタビューの全文はwebで!

BOOK

「診療科別ICT化のすすめ」

目次のご案内

- **巻頭SPECIAL対談**（大江 和彦×羽鳥 裕）
- **TOPICS**
  1. 医療分野におけるキャッシュレス対応
  2. どうなる？ 2020年度診療報酬改定
  3. 医療分野におけるRPAの活用
- **診療科別ポイント**（システム活用の事例を紹介）
- **訪問インタビュー**
- **商品紹介**（74点の商品情報を掲載）

ICT化を検討しているクリニック様に役立つ情報が満載!!

ICT化について詳しくご案内しております。

ご興味ある先生はぜひお求めください。

Web登録 特典

今なら「メディカタログ」に会員登録をされた方には本誌を差し上げます!!

メディカルICTレターでは、メディカタログに掲載されるICT事例を元にICT導入のメリットや注意点、導入のきっかけなどをご案内し、より多くの先生のICT化のお役に立てるような情報配信を行いたいと考えております。

続きはこちら

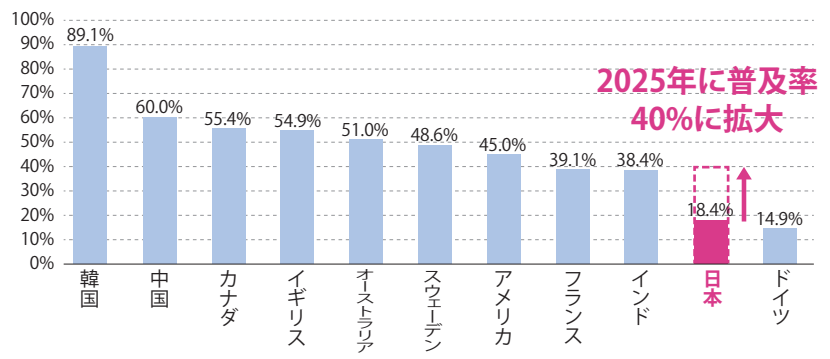
web https://medi-catalog.com/ メディカタログ 検索

新刊「診療科別ICT化のすすめ」 今なら メディカタログへご登録の方には新刊を無料進呈いたします。

メール｜catalog@pm.orcamo.co.jp 電話｜03-5981-9681 [日本医師会ORCA管理機構（株）メディカタログ担当]

キャッシュレス決済の拡大と医療機関の対応

今年、開催されるオリンピック、パラリンピックと2025年に開催予定の大阪・関西万博では多くの訪日顧客が期待されています。しかし、キャッシュレスの普及率が諸外国と比べて遅れていることで国内での消費に不利益を与えるのではないかと懸念されています。そこで、政府はキャッシュレスビジョンを発表し、2025年にキャッシュレス決済比率を40%まで高めると定めました。



一方、患者から見た医療機関でのキャッシュレス決済のニーズは非常に高い状態なのですが、医療現場におけるキャッシュレス決済の導入には、カード会社を中心とする加盟店手数料が徴収されることや、利用開始に至る手続きの煩雑さ・設備投資、機器の利用方法の習得などの負担が普及を阻害してきました。さらに、キャッシュレスの支払い方法も多様化しており、後払いのクレジットカード、即時払いのデビットカード・モバイルウォレット、前払いの電子マネーなどがあり、スマホ決済との親和性のある決済が急激に増えている現実もあります。

政府（特に経済産業省）

- 基本的に諸外国に対してキャッシュレス化が遅れており、企業等の効率化を促進したい
- その為に、キャッシュレス拡大の課題に対して、積極的に制度改定などを実施

患者

- 医療機関での受療は不急の場合もあり非現金決済ニーズは高い
- 昨今のキャッシュレスの拡大により、相対的に以前よりニーズは高まっている

医療機関

- 条件が整えば対応は進めたいと考えるが、条件の良い、分かりやすい、安心できるサービスが存在しない
- 人手不足もあり、効率化は進めたい

日本医師会ORCA管理機構では、医療機関における導入のベネフィットや課題に対して分析、業界をリードする主体としての可能性を検討しています

このような背景から、日本医師会ORCA管理機構では複数の決済手段に対応できる低手数料のキャッシュレスサービスを準備中です。

クレジット決済
銀行決済
電子マネー
QR決済（国内・海外）
などの決済手段

→

＼ ORCAMOのキャッシュレスサービス ／

ORCAMOが電子決済を纏めることで既存の課題を解決!!

- 医療機関にわかりやすい決済パッケージ
- ORCAMOによる決済手段の集約
- 月次の精算などのサポート、問い合わせ窓口の設置
- 医療機関の規模を束ねて、決済コスト低減

医療機関の導入のしにくさの解消

医療機関

医療機関側の課題

- 安全なのかどうか
- 決済手数料、運用コストが高い
- 導入に向けた相談先が無い
- 日々の運用が実施できるか不安

紹介サイト｜https://www.orcamo.co.jp/products/cashless.html
お問い合せ｜03-5981-9683（キャッシュレス担当）

日本医師会ORCA管理機構　〒113-0021 東京都文京区本駒込六丁目1番21号 コロナ社第3ビル6階 電話:03-5981-9681（代表）